



俳句

玉井北男 選

お遍路の己が手向けし灯に祈る 藤崎 泉
 水車踏む人影ゆれる青田波 伊藤通友
 ハンモック木蔭にゆれて嬰笑ふ 高橋和子
 輝やける入学の日や大手門 青野義明
 観音堂抱きて藤の垂るるかな 三好清信
 今日とは今日散りゆく花に話しかけ 三谷福美
 里山の家庭菜園花大根 高橋 和
 初つばめ四万十川に沈下橋 大森妙子

川柳

金子一孝 選

面倒な着替えこれこそリフレッシュ 藤田清子
 生きることそれだけでよし今日の空 渡部道子
 米寿にもこれから先の穂木を接ぐ 吉木篤美
 八〇二〇三度の飯は噛んで食べ 近藤忠夫
 パソコンのワークへ肩も手も痺れ 首藤一志
 石鏡へお上りさんの八十路過ぎ 桧垣タマ子
 菅笠の歩き遍路に影ふたつ 三好清信
 留守頭少し活かして五七五 大谷道子

短歌

藤田虎雄 選

舞ひ散れる花吹雪浴び石段を踏んで登りぬ石 月岡啓子
 鏡の宮 狭庭に心待ちせし薄紅の花みずき咲けば歌口 塩見加代子
 ずさむ いただいて茹でし蚕豆まだ稚くひとつひとつ 森田 薫
 をていねいに食す 雨を待つ蛙しきりに声立てり休耕田の草茂る 宮田 忍
 中 木犀の茂みに揺るるひと所 雀籠りて飛び交 塩見田鶴子
 へるなり 高縄の連山雨に洗われて萌黄の若葉奥山画す 青木タクコ
 母の日の初夏の夕空 子供なき身の老い一人 向所幸代
 に今日も暮れゆく せつかくの五月晴れにも霏りて石鏡の山朧に見ゆる 吉田喜代子

俳句・川柳・短歌 作品募集

作品(俳句・川柳・短歌の別を書き、漢字にはふりがなを振ってください)・住所・氏名・電話番号を明記し、毎月1日までに担当課へ郵送・持参してください。

応募先
 〒793-8601 明屋敷164
 市庁舎本館 総務課 広報情報係
 TEL 0897-52-1204 (直通)

Your Friendly Neighbors

世界のゆかいな仲間たち

No.87 四季あり世界



▲国際交流員

ケイレブ・デマレーさん

初夏の昼。窓が開いているのに、室内の空気がやや重い。日光浴の午後に蛍光灯の光を浴びざるを得ないのも矛盾していると思いきや、あつという間に時間が過ぎる。外へ出た途端、暑すぎず、まだ明るいことに感謝。石鏡山に感謝する。キリストに感謝する。あらゆる神に感謝を申し上げても、可笑しくはないでしょう。穴場の焼き鳥屋さんに足が向く。着いたら、「ただいま」という。生ビール

大が出てきて、付だしの鶏皮を食べると大将に「わし、手羽」と次の一品を注文。

秋の深夜。穏やかな町だったのに、今日は大騒ぎ。提灯の灯りが遠くに見え、太鼓が聞こえる。鮮やかな衣装を着ている人があちこちにおる。コンビニの前で円型に座って、一升瓶をまわしながら相当呑気そう。人間の波に置いてゆき、朝まで町中を彷徨う。神を感じる。愛を感じる。恐怖を感じる。結局、朝日が昇って新たな一日。また深夜になるまで多少睡眠をとり、どうにか生き返って、どうにか再び挑戦する。お祭りじゃけん。

冬。故郷の地元なら厳格な寒さだが、市内も寒く感じる。壁が薄いせい。自転車生活のせい。海風が吹くせい。なんせ、寒い。日が早く暮れる。それこそ、冬は途方に暮れると考える時がある。太陽がピタミンを体にくれるのに、太陽がなかなか現れない冬は鬱も知る。寒くて布団から出たくないのに、気合を入れて運動するのが一番。じゃかましい冬は嫌。たくましい冬がエエ!

蘇る春。世界中の良い季節。世界には四季があるが、数え切れない人種がおる。日本から海外へ桜をたくさん贈っている様に、世界からたくさんの人々が日本に行き来している。桜が海外では珍しくない。日本では外国人が珍しい。これは事実じゃ。ただし、桜が世界中に頻繁に見える程、いずれに日本でも「外国人」という言葉に意味がなくなるぐらい頻繁にいることになる。世界は一族という現実です。蘇る春には、新たな現実に目覚めるべき。どこにいても、忘れないでください。西条市、さようなら。